

主張

車いすで自由に移動できる環境整備を

「JRで車いすは乗車拒否されました」というツイートルのプロクが炎上した。書いたのは、社民党常任幹事でありコラムニストの伊是名夏子さんだ。4月初旬、子どもと介助者ら計5人で、熱海へ1泊2日の旅行に出かけた時、JR小田原駅で来宮駅での下車を希望していることを伝えると、「来宮駅は階段しかない

伊是名さんの問題提起

ので、ご案内できません」と乗車拒否された経緯をブログに書いたところ、ネット上では賛否が分かれ、伊是名さんに対する誹謗(ひぼう)中傷や差別的なコメントがあふれた。彼女が社民党の常任幹事であることから、党本部にも批判の電話やメールが相次いだ。

「やり方(訴え方)が間違っている」結果的に到着できたのだから乗車拒否ではない「なぜ事前連絡をしなかったのか」「駅員への感謝の言葉がない」「わがまま」「100キロもの電動車いすを運ばせて駅員への労働過重だ」といった批判が相次いだ。2017年にも、車いすに乗った男性がバニラ・エアに搭乗を拒否され、自力でタラップをよじ登った出来事があったが、その時も批判の声が障害者に向けられた。なぜ、繰り返されるのだろうか。

障害のない私たちが想定することもない乗車拒否。私たちがする必要のない事前連絡。私たちがしなくてもよい駅員との交渉。私たちが求められることもない丁重な姿勢や感謝の言葉。私たちがおびえることのない誹謗中傷、そして差別。まずは健常者がこの「特権」を自覚することなしに、差別解消は進まない。

駅員の労働過重という意見に対しては、障害者を非難するよりも企業に対し要望を上げよう、労働者の安全衛生を確保するためにも人員を増やし、エレベーターを設置して障害者差別解消法を履行しようと、現場の労働者からJR東日本に要求を上げてほしい。来宮駅は15年から無人駅になった。JR東日本の大幅な人員削減の中で無人化された駅の一つだろう。公共交通を民営化して本当に良かったのかという、国鉄分割民営化の是非にもつながっている。少子高齢化の中、人口が減り、過疎化が進む中、無人駅は全体の5割。人々の移動の権利をどう守るかは全国的な課題だ。

今は障害がなくても、年を取れば身体が不自由になる。誰でも障害者になる可能性がある。伊是名さんが上げた声は、全ての人が移動の自由をあきらめないための重要な問題提起だ。